聖書宣教会通信

Japan Bible Seminary Newsletter

No.172
2018.3.1

巻頭言
Greeting

× 岸本 紘
Hiroshi Kishimoto
聖書宣教会 理事長
（川越聖書教会牧師）

Profile

1944年生まれ。聖書神学舎卒業後、和歌山、神戸、旭川の諸教会を経て、1986年から今日まで川越聖書教会牧師。2014年から聖書宣教会理事長。

「あなたは祝福となりなさい」 創世記 12:2c

半世紀振りの大改訂『聖書新改訳2017』を手にスタートした新年、めったに巡り会えない恵みです。使い慣れた聖書通読誌も今年は創世記から始まっているので、旧約聖書冒頭からひも解いて、心踊る日々を送ることになりました。

私たちはこうして聖書を読むたびに、主から「あなた」と呼びかけられた人々の経験を追体験し、聖霊の助けによって生ける神を親しく知る者になります。奇抜な現象や独自の体験ではなく、ただ聖書によって、主の前にいる自分を知ることになります。教会で育つ子どもたちが楽園追放の絵を見て即座に「あっ、アダムとエバだ」と叫ぶとき、彼らはすでに「あなたはどこにいるのか」と呼びかけるお方を知っているのです。絵によってではなく、みことばによって養われた結果です。

古代の多くの英雄物語は、血気盛んな若者が自己実現をめざして突き進む冒険談であったけれども、老人アブラハムの旅は「あなたはわたしが示す地へ行きなさい」との主のことばで始まりました。自分ではなく、他人でもなく、神である主が人生の導き手です。道筋が定かでなくても、また自分の思い通りでなくても、アブラハムは主のことば通り、とにもかくにも出発し、結局は生涯、主に従いました。こうして彼は「多くの国民の父」と呼ばれるようになったのでした。

「行きなさい」という命令のあと、「あなたを祝福する」「地のすべての部族はあなたによって祝福される」との約束の数々が並べ立てられるさなかに、「祝福となりなさい」と、もう一つの命令形が出てくるところでハッとしました。「祝福となる」という約束と、「祝福となりなさい」という命令とでは、微妙に違います。

妻を奪われたり自分が殺されたりの、いわば他人の祝福を奪おうとする世にあって――根本的には今も同じですが――、主はアブラハムに「行きなさい」「祝福となりなさい」と命じ、彼を約束と祝福を運んで行く、信仰の第一走者とされたのでした。そしてさらに「あなたの子孫によって」と明確にされたその約束は、遂に「アブラハムの子、ダビデの子」として来られた御子の贖いによって実現しました。

主は当然のことながら、御子にあって新しいいのちを生きる私たちにも、「行きなさい」「祝福となりなさい」と仰せになります。これらが新しいいのちの特質だからです。

「祝福となりなさい」――老人アブラハムの旅立ちの年齢に近づいた私も、おことば通りの者になりたいと心から願います。皆さんの迷惑にならないよう自戒しつつ。

No.172 Topics

- p03 単身寮から
- p04、05 卒業生の働きの場から、あかし
- p06、07 学びの窓
- p08 2018年度予定

まことに主はこの場所におられる

創世記28:16

赤坂 泉
Izumi Akasaka
聖書宣教会 校長

新体制の一年間

主に導かれ、諸教会の祈りに覚えていただいて、新体制初年度が無事に終わろうとしています。研修生の学びと訓練も、教師・講師陣の奉仕も、学舎の運営や経済の必要も、あらゆる面で主に守られて過ごした一年でした。恵みの主に感謝し、御名をあがめています。また教職員の主への献身と主にある一致、研修生、諸教会の協働に感謝しています。祈りと献金をもってこの働きに参与し、献品やボランティア奉仕をもって支えてくださる大勢の皆様に感謝を申し上げます。

節目のとき

今春の卒業生は４名となりました。最後の学期の学びと卒論・卒研等を締めくくり、チャペルで説教し、奉仕教会での訓練を終えて、3月12日の卒業式をもって学舎から送り出されます。近くは都内や近県、遠くは英国ロンドンと、様々な働きの現場へと遣わされて参ります。同窓生諸兄姉にも異動の多い春であるように思います。それぞれの新たな場において、みことばに仕える務めをしっかり担えるように祈っています。

春の調整期間には、結婚を予定している講師、研修生があります。教師会は今年も特別に集まって今後の学舎の働きのために祈り、協議する機会を持ちます。教職員にも少し異動があります。久利英二師が定年で教師会からは退き、田村将師が教師となります。伊藤暢人師が牧会教会を転任しますが、学舎での奉仕は従来通り続けていただけます。講師では中村敏師と山中直義師が退任となります。先生がたの学舎における奉仕とともに、牧会伝道の祝福のためにもお祈りください。もう一人の専任教師の必要のためにも続けてお祈りください。

新年度は本科に６名と聖書科・教会音楽専攻に１名との、７名の新入会生を迎えて、4月10日に入会式を行います。新入生をはじめ一同が主の前に誠実を尽くして新たな学びと訓練に歩めるようお祈りください。夏期研修講座「祈りの聖書的な理解を求めて」と教会音楽夏期講習会「みことばと音楽」ー詩篇103篇「わがたましいよ　主をほめたたえよ」ーの準備も始まっています。拡大教育ともども、案内をご覧いただき、それぞれの目的と対象に従って機会をお用いいただければ幸いです。

この時代に

地上の営みには変転が付き物とは言え、日本では安全保障や憲法関連の動き、天皇の代替わりと政教分離の問題が急を告げていますし、経済や政治、環境の問題や騒乱・戦乱など、世界中に激動の局面が山積です。そのただ中に遣わされている主の民として、主の臨在と主権から目を離すことなく、主だけを恐れ、主にのみ従うことを徹底したいと思います。「まことに主はこの場所におられる」と告白して、みことばを聴くことを徹底し、みことばに応答して生きることを徹底したいと思います。学舎の歩みがそのようであるように、そして、そのように教え導く伝道者を送り出せるように、お祈り、お支えください。

諸教会の皆様のうえにも、臨在の主の恵みが豊かでありますようにお祈りします。

02 単身寮から
From the Single's Dormitory

寮生活をする意味

小山（あっし） 敦史
聖書神学舎本科3年

寮生活をしていると、様々なことに向き合わされます。みことば・召し・時間管理・誘惑…その中でも今回は「人」と向き合うことに焦点を当てたいと思います。

寮には、様々な背景や賜物をもった研修生が集まって生活します。自分に近い人もいれば、そうではない人もいます。多様な研修生と一緒に生活するのですから、その人を“受け入れる”ことが求められます。ですが、自分の心と反発してしまい、中々上手くいかないこともあります。私自身、人を“受け入れる”幅が狭い傾向を持っていることに気付かされました。

“受け入れる”だけではなく、愛しているからこそ“衝突する”ことも大切だと思います。整えられなければならない傾向があるのならば、それは相手に伝えなければなりません。その際には、愛をもって伝えることが問われます。しかし、愛をもって伝える難しさを何度も経験します。

寮生活を振り返るとき、楽しいこともありつつ、自分の至らなさが思い起こされます。周りを悩ませ、自分自身も悩みます。それでも悔い改める中で、神さまが失敗も用いてくださって、必要な気付きを少しずつ与えてくださり、「人」と向き合うことの深みを少しずつ教えてくださっていることを感謝いたします。これら一連の経験が、寮生活をする意味の一つではないかと思わされます。

単身寮での日々あれこれそれ

阿部 真知子
聖書神学舎本科2年

目覚める。中庭に鍵開けの音が響く。
祈る。この日の神様の宣教のわざを覚えて。
食べる。時々、作る。ご飯と味噌汁、おかず一品。
掃く、拭く。与えられている環境に感謝して。
知る。授業で忘れ物をしても、休憩時間に取りにいける近さ。
止まる。毎日のみことばの語りかけに。
入れる。カップにコーヒーか、頭に単語か。
並べる。色とりどりの旬の食材を、丁寧に。
走る。食事の片付けをギリギリに終えて。
休む。学びの合間に。
鳴る。あっという間に夕刻のチャイム。
磨く。整理と料理の腕を。
笑う。食卓の隠し味。
篭もる。自分の部屋、図書館、祈祷室、空き部屋に。
聴く。みことばに、神様に。
語らう。一日の出来事を。
祈る。この日の歩みに感謝して、同室者と共に。
静まる。夜も休まず、まどろむこともない神様を覚えながら。

単身寮の一日は、あちこちに、神様の恵みが満ちています。しかし、それら全てを、自分一人で受け取ることはできません。

とことん学びと向き合うために、他者と向き合うために、何よりも神様と向き合うために、自分は今、何をすることが神様のみこころなのかと、祈りなしにはなしえません。

一人であって一人でない生活は、毎日神様のあわれみです。

出会いとつながり、そして主のみわざ

栗原 純人
Sumito Kurihara
岸和田北聖書教会 牧師

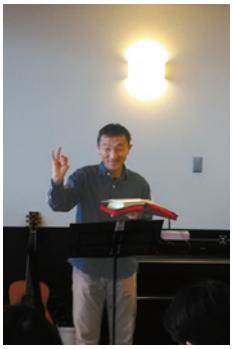
牧師になって三年目の春（2002年）から四年間、教会の近所にあるK病院の緩和ケア病棟（ホスピス）のボランティアをしました。週一回4時間、ギターやオカリナを演奏し、患者さんと歌い、語り合いました。週一ボランティアを辞めた後も、毎年のクリスマス会には「歌とお話」で呼んでいただきました。そこで出会ったナースのひとりの方は、現在私たちの教会で求道しておられます。彼女はK病院を辞めた後、別の病院のホスピス立ち上げに尽力された方(主任)で、2017年は、この病院のクリスマス会で、やはり「歌とお話」をしました。多くの患者さんにとっては、これが最後のクリスマス。ことばを選びながら福音を語りました。会が終わると、ひとりの女性（Nさん）が私に言われました。「どうせ、しょうもない歌を二、三曲聞かされて『おわり』かと思ってたけど、歌もお話もみんな意味があると思った」。実はNさん、他教会のひとりの姉の中学時代からの同級生で、彼女は今までNさんの救いのために祈り、特にガンになられてからは、よりいっそう祈ってきたとのこと。このクリスマス会の後、姉はNさんを訪ね、個人伝道をし、はっきりとした信仰告白に至ったそうです。一つの聖句を思い起こしました。

「イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、『子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された』と言われた。」（マタイ9：2）

クリスマス会で私が語り、Nさんの心に届いたみことばこそ、これでした。

「あなたの罪は赦された。」

Nさんは救いの確信をもって、年末に召天されました。



すべての良いわざを進んでする者となるように テトス3：1

菅原 豊
Yutaka Sugahawa
白金キリスト教会 牧師

瀬戸内の穏やかな気候と讃岐うどん、香川県での奉仕が１３年になります。坂出市の白金キリスト教会と、枝教会の国分寺キリスト教会（卒業生の原牧子姉が牧師夫人として奉仕）、２０１７年度に始まった林田オリーブチャペル、全体でも５～６０名の小さな群れですが、地域に根ざした教会として歩んでいます。地方都市にある教会と牧師は、町医者のような存在です。「私はこれが苦手だから…」と言っていられないのが現状ですし、「ゆりかごから墓場まで」信徒に寄り添っていくことが期待されます。地域の宣教協力、所属する団体で果たす責任も求められます。自分の力量を越えた働きに恐れを感じつつ「すべての良いわざを進んでする者となるように」心がけてきました。

林田オリーブチャペル開所式

そんな私の奉仕の土台は聖書宣教会の4年間にあります。みことばを学ぶことの厳粛さと楽しさを教えられ、主にある同労者の交わりの豊かさを味わった４年間でした。聖書宣教会がみことばに土台を置いて「すべての良いわざを進んでする」奉仕者を輩出してゆくことを願い、祈っています。全国の教会は、そのような奉仕者を期待しているのですから。白金キリスト教会のみなさん、家族、そして、主のあわれみと恵みに感謝しつつ。

03 卒業生の働きの場から
From Graduates on the Field

ともに学びつつ…

赤坂 恵美
Emi Akasaka
聖書神学舎 講師

夫の専任教師への転任に伴い、三人の子供たちとともに研修棟3階の教師住戸に移り住んだのは14年半前のことです。岳藤豪希師が教会音楽舎の責任を降りられた後で、教会音楽舎から教会音楽科へと名前もカリキュラムも変わり、中心となる教師も替わろうという、そのようなときでした。

大学で音楽学を学んでいた頃受洗の恵みにあずかった私は、幼い信仰ながらいずれ何か主のお役に立てればと、教会音楽家H.シュッツを卒論のテーマにしました。しかし数年後、コロサイ1:28のみことばに導かれ、同じみことばが与えられていた夫の助け手として「すべての人を、キリストにある成人として立たせる」ことを使命と受けとめました。大学院を修了すると同時に三重県の教会で主と教会に仕え始めたときには、ですから、「教会音楽を通して」では“なく”、「みことばの宣教によって」（その器の助け手として）その使命に生きると考えていたのです。岳藤師夫妻とは近しい関係であったため、師の「教会音楽の使命は、みことばの宣教である」との教会音楽観は折りに触れ耳にしていましたし、そもそも私が大学で音楽学を学ぶことになったのも、H.シュッツの、それも「ことばと音楽」をテーマにしようと考えたのも、師の影響に因るものでした。ですが当時、“教会音楽”と“みことばの宣教”とは私にとっては全く別次元のもので、ましてや「キリストにある成人として立たせる」ことと教会音楽とは全く接点のないものでした。それでも、岳藤師のことばは常に私の頭の中を巡っており、師の情熱から来る極端とも思える発言には、ある人々のように私自身も反発を感じる一方で、自分なりに消化して師の言う教会音楽の理念を弁証したいという思いも持ち続けていました。

教会音楽の科目を担当するよう要請されたのは、羽村に来てそう何年も経っていないときでした。神学校で教会音楽を学んでいない者がそこで教えるなんてとんでもないことと、当然思いましたが、「学びながら教えるのです」というある方の言葉に後押しされ、かつて図らずも与えられた音楽学の学びで得たものを分かち合うことが今の私に出来ることならば、その“分”を果たそうと、教会音楽科のほんの一部分の講義を担当することになりました。以来、現在聖書科・教会音楽専攻となった科の指導に携わる他の先生方からも多くを教えていただきつつ、また、聖書と神学の科目を聴講しながら、授業やその他の奉仕の準備にもがきつつ取り組む中で、教会音楽が、みことばの宣教とも、「キリストにある成人として立たせる」こととも、切り離せないものであることを私自身が教えられて来ました。余りにも拙い者が、研修生の忍耐もいただき、共に主の前に学べることを、大変な恵みと覚え感謝しています。「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ・・・」コロサイ3:16のみことばの奥義をますます深く知る者とされたいと思います。

File No.004

サムエル記注解書の執筆を終わって

津村 俊夫
Toshio Tsumura
聖書宣教会 研究図書主任・図書館長

聖書翻訳に集中して数年間中断していた執筆を8月に再開し、年末に最終稿を出版社に送りました。それを引き受けたのは実に28年前のことです。大学をやめ4月から神学舎の専任教師となることになっていた1990年の年賀状に交じって、カナダから一通の封書が来ました。お会いしたこともないハリソン教授からの、NICOT注解書シリーズのためにサムエル記の注解書を書いて欲しいという依頼でした。歴史書について注解書を書くことなど夢にも思っていなかったので、受諾をしばしためらっていました。恩師のゴードン先生の勧めもあって、引き受けることにしました。

引き受けて見ると、それまでの私のカナン・ウガリトの宗教文化の研究やセム語学の知識が生かされるかも知れないという思いが湧いてきました。中でも難解なヘブル語本文に取り組むことができることは喜びでした。サムエル記は伝統的なマソラ本文(MT)が七十人訳ギリシャ語聖書(LXX)と食い違っていて、しかも死海写本(DSS)がLXXを支持すると言われたために、MTが「破損している」(corrupt) と言われてきた書物です。(DSSサムエル記は、発見後50年以上少数の学者に占有され、2005年にようやく公刊された。)

1960年代にはそのような定説があって、新改訳聖書でも初版ではLXXによって本文を修正しているところが十数カ所ありました。口語訳では、もっと多くLXXを採用していても、注がないために読者に気がつかれなかっただけです。今回の新改訳2017では殆どなくなりました。それは、MTが一見独特な綴り字を採用していても、文字の背後にある音に注目することによって、誤った本文であるとは言い切れないことが分かってきたからです。その上、注解者の多くが歴史家であったりギリシャ語の専門家であって、ヘブル語を含むセム語学、特に音韻論に通じていないことから来る誤解もあったと私は思います。所詮LXXは翻訳でしかありません。現代の学者がLXXの翻訳者が用いたであろうヘブル語を、ギリシャ語の訳文から復元することは推測の域を出ないのです。

この執筆を通して分かったことは、多くの注解者がいつの間にか本文から離れ、自分のすばらしい神学的洞察や文学的自己陶酔に陥っているということです。ドイツのある学者が私のサムエル記第一の注解書(2007)について、「あなたのは、最後までヘブル語本文から離れないので良い」と言ってくれました。私の意見に賛成するかどうかではなく、聖書本文がどう言っているかを判断するときに私のが少しでも役に立つのであれば、これ程うれしいことはありません。これも皆様の祈りと励ましがあったからです。

File No.005

詩文の比喩表現 (Figures of Speech) について

伊藤 暢人
Nobuhito Ito
聖書神学舎 教務主任

昨夏の短期留学については前号で証しを書いたのですが、せっかくの機会を感謝しつつ、また学びの内容を書くようにとのリクエストもいただいたので、少しだけですがお分かちさせていただきます。

比喩表現 (figures of speech) は、並行法とともに詩文に顕著な特徴の一つです。詩文にしかないわけではありませんし、また、詩文に不可欠だというのでもありません。けれども、詩文にたくさんの豊かな比喩表現が用いられていることは、誰もが認めるところでしょう。

身近なところでは「主は私の羊飼い」(詩篇23篇1節)を挙げることができます。「羊飼い」とは通常、動物の飼育を行う人です。しかし、「主」とは神であり、天的・霊的な存在です。そのような異なる範疇の存在をあえて単純に並置することで、詩人は「主」に関するある像(イメージ)を聞き手のうちにかき立てます。この場合それは、必要を満たす(1節)、休息を与える(2節)、導く(3節)、保護する(4節)などを考えることが出来るでしょうか。このように、表現にすき間を持たせ、かつ刺激的な言い方をすることで、聞き手にある種の感情やイメージを豊かに呼び起こすことこそ、比喩表現の醍醐味と言って良いでしょう。

では、詩篇42篇1節はどうでしょうか。「主は私の羊飼い」は隠喩(metaphor) でしたが、ここでは「鹿」と「私のたましい」、「谷川の流れ」と「あなた(神)」が、「・・・ように」(kə … kēn)という明確なマーカーをもって比べられます(直喩 simile)。2節に入っても水のイメージは続いていて、神が「生ける神(ʾēl ḥāy)と言われているのは、「湧き水」(mayim ḥayyîm)のイメージと重ねられているのだと思われます。鹿にとって谷川の流れが生きるために死活問題であるのと同じように、人のたましいにとって生ける神はどうしても必要な存在であるのです。その意味で、詩人が比喩に「水」を用いたことは実にふさわしい像(イメージ)であったと言うことができます。

比喩表現は目に見えない神を描写する時に多用されます。神を人間のある特質になぞらえて表現する「御顔、御手、御口、御心」などもそうですし(アンスロポモーフィズム Anthropomorphism)、時には神を動物の特質になぞらえることもあります(ズーモーフィズム Zoomorphism)。詩篇50篇22節、57篇1節などを挙げることができるでしょう。

詩篇114篇3-4節のように、比喩表現であるのか文字通りの意味であるのか、判断が簡単でない例もあります。詩文ならではの味わいのある言い回しを喜びつつ、テキストの意味していることによく耳を傾けていきたいと思わされます。

聖書宣教会通信 No.172 発行者：岸本 紘 〒205-0017 東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel 042-554-1710 Fax 042-554-5562 http://www.bibleseminary.jp/ 振替 00150-6-34971（聖書宣教会）

2018 年度 講座案内

2018 Courses and Schedule

2018年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。各講座の詳細は、別紙案内やウェブサイトをご覧ください。このほかに聴講制度があります（詳細は事務局まで）。

聖書講座：金曜日10:30-12:10

聖書の基礎的な学びの機会を求めておられる方々のための講座です。

前期15回：弁証論

ー疑問に向き合う信仰ー

講師：野村 天路（たかみち）
（聖書宣教会 聖書神学舎講師、生田丘の上キリスト教会 牧師）
会場：ぶどうの樹キリスト教会（四ッ谷）

後期15回：ヨハネの手紙1、2、3

講師：櫛田 信（中山キリスト教会 牧師）

教会合唱講座：火曜日

聖歌隊員、聖歌隊指揮者、教会学校教師、会衆の方、賛美を学びたい方のための講座です。初めての方も歓迎いたします。

前期９回、後期９回

・基礎講座
（個人・グループ指導）17:00〜18:30
・合唱講座　18:00〜20:00

上記のいずれか一つ、または両方受講可能です。
18:00〜18:30は、みことばの時（共通）です。

講師：飯島 千雍子（ちがこ）
（聖書宣教会 聖書神学舎教師）
馬場 義実（よしみ）（ときわ聖書教会 伝道師）
会場：浜田山キリスト教会

第43回 夏期研修講座

「祈りの聖書的な理解を求めて」

期間：7月 9日（月）〜 11日（水）
会場：奥多摩福音の家
対象：牧会者とその配偶者
講師：鞭木 由行、赤坂 泉、伊藤 暢人、内田 和彦、田村 将、津村 俊夫、三浦 譲

第34回 教会音楽夏期研修講座

「みことばと音楽」

ー詩篇103篇「わがたましいよ 主をほめたたえよ」ー

期間：7月25日（水）〜 27日（金）
会場：聖書宣教会（宿泊は別紙案内参照）
対象：聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方。牧会者・教職者・信徒の方も参加できます。
講師：聖書宣教会教師・講師ほか

2018 年度 主要年間予定

2018 School Year

2018

4月10日(火)	入会式
4月13日(金)	前期授業開始
5月23日(水)	祈りの日
6月　9日(土)	教会音楽のひととき
6月12日(火)〜6月13日(水)	特別講義
6月29日(金)〜7月　5日(木)	集中講義
7月　6日(金)〜8月29日(水)	夏期調整期間
7月　9日(月)〜7月11日(水)	夏期研修講座
7月中旬〜	キャラバン伝道
7月25日(水)〜7月27日(金)	教会音楽夏期講習会
9月　1日(土)	前期授業再開
10月12日(金)	前期授業終了
10月13日(土)〜10月24日(水)	秋期調整期間
10月16日(火)〜10月17日(水)	リトリート
10月25日(木)	後期授業開始
11月10日(土)	オープンデイ
11月22日(木)	祈りの日
12月　1日(土)	賛美礼拝
12月9日(日)〜1月　4日(金)	クリスマス調整期間

2019

1月　5日(土)	後期授業再開
2月　4日(月)	入会試験
2月11日(月)	信教の自由を守る日
3月13日(水)	後期授業終了
3月14日(木)	卒論発表会
3月18日(月)	第60回卒業式